

YBA Signature Series

熟成の美

フランスのビュアオーディオ・ブランド「YBA」。そのフラッグシップ「Signature」シリーズのプリとパワーが出揃った。分厚いアルミ合金ブロックの削り出しボディの中には、シンプルな美しい基板が格納され、その回路には徹底的にこだわったYBAオリジナルパーツが採用されているという、まさに熟成されたアンプ設計。そんなYBA最高峰モデルを、本誌試聴室にて実際に体験する貴重な機会を得たのでレポートしたい。

Text by 藤岡 誠
Makoto Fujioka

芸術的な音の世界を
生み出すアンプ技術の粋!

■YBA主宰・設計者
イヴ・ベルナード・アンドレ氏
Yves-Bernard André



YBAはかつてゴールドムンドのアンプ設計者であったアンドレ氏が独立して1986年にパリ郊外で設立されたブランド。同氏は医学用レーザーダイオードなどの研究者でもあり、パレソー・エコール・ポリテクニク工科大学で教鞭をとっている。

アンプ作りの技術を深く掘り下げ進化させた傑作

「YBA」はフランスのオーディオ専門メーカー。社名は創業者のイヴ・ベルナード・アンドレのイニシャル。彼は、フランス時代のゴールドムンド社でアンプ設計に携わった後、前史はあるが1986年に正式に創業。日本市場では派手な営業活動などをしていないこともあって、知る人ぞ知るに近い存在といっている。主力製品はア

ンプだが、CDプレーヤー、オーディオケーブルをラインアップ。ここで紹介する「Signature」シリーズはセパレートアンプ。この存在を知られば、もっと内容を知り、実際に聴いてみたいという欲求が芽生えてくるはずだ。

まず、ボディに注目。いずれも上下2ピース構造で、大きくて分厚いアルミ合金ブロックからの高精度削り出しで、非磁性体と超剛性の特質を両立させている。プリアンプのそれは重量20kg以上、パワーアンプは30kg以上という桁違いの代物。特にパワーアンプの下層部は10cm厚で仕上げられ、まさに「画期的で、凄いとしか言いようがない」。

使用部品に対するこだわりも強烈だ。YBAのブランドを印字した精密抵抗器を始め、特注のオリジナル部品を数多く採用。電源トランスはUI-CORE型。一見すると1個に見えるがツイン構造だから実際は、左右ch独立2電源トランス方式に相当する。また、昨今のハイテクの象徴ともいえる

高密度表面実装基板に近づきもしていないことも私は高く評価する。つまり、たつぷりと余裕を採った往年のプリント基板の形態を採用しているのだ。若い人達は古い臭いイメージを抱くかもしれないが、長くビュアオーディオをやってきた人達にとっては実に頼もしいプリント基板だ。もっとも、前述したオリジナル部品を実装するにはこれしかない。その上で、モノブロック思想を徹底させ左右chの相互干渉を極小化している。

販売元のオーディオスペースコアの後、降市氏は、次のように語っている。「オーディオ技術の進化といえは、従来技術を忘れ去るほどの技術革新と、従来技術を徹底的に掘り下げ熟成させる進化の2つに集約できる。そしてSignature Seriesは後者に属する製品だ」

●Signature Pre Amp
高純度な間接音を巧みに融合
音楽性の高いプリアンプ

Signature Pre Ampは、MM型カートリッジ対応フォノEQ(NF型)機能とUSB入力を含むDAC機能(この回路だけは表面実装基板)を装備したアンバランス回路のプリアンプ。DACの装

備は、昨今のプログラムソースの世界的な方向性を意識したコンセプトだろう。日本市場向けに限ってDAC回路への電源供給は背面スイッチでON/OFF可能だ。なお、入力はRCA×5、XLR(2番HOT)×1。出力はRCA×2、XLR×1を装備。パネル左のノブは入力切り換え、右は音量調整。トーン/バランスコントロールは排除されている。中央のディスプレイには、入力ポジションと0〜80までの音量数値が表示される。その下部にYBAのロゴマークを長押しするとスタンバイモードになる。この機能はSignature Power Ampも同様である。

音は一口でいえば「美的」。直接音をむき出しにせず、高純度な間接音を巧みに融合させて美しく音楽的なバランスである。そして高SN比。なお、本機のXLR端子はオマケと捉えてよろしい。クオリテ

Photo by: 小林幹彦(彩虹舎)



YBA Signature Pre Amp

¥OPEN(予想実売価格¥2,550,000前後)

Specifications

●アナログ入力: RCA×5、XLR×1 ●デジタル入力: USB、同軸RCA、光TOS各1 ●フォノ入力: RCA(MM)×1 ●アナログ出力: RCA×2、XLR×1 ●S/N: 105dB以上 ●全高調波歪み率: 0.003%以下 ●定格消費電力: 20VA ●電源トランス: UI-CORE 190VA 100V オリジナル ●サイズ: 430W×388D×151Hmm ●質量: 27.5 kg ●取り扱い: オーディオスペースコア



YBA Signature Power Amp

¥OPEN(予想実売価格¥2,930,000前後)ステレオパワーアンプ

Specifications

●定格出力: 200W+200W(8Ω)、400W+400W(4Ω)、Mono 600W(8Ω/ブリッジ時) ●S/N: 95dB以上 ●入力端子: RCAステレオ×1、XLRステレオ×1、XLRモノ×1 ●再生周波数特性: 20~20kHz(-0.5dB) ●定格消費電力: 50VA ●電源トランス: UI-CORE 1,000VA 100V オリジナル ●サイズ: 430W×390D×170Hmm ●質量: 42.5 kg ●取り扱い: オーディオスペースコア

イは入出力共にRCAのアンバランス接続・伝送が素晴らしい。

● Signature Power Amp
低域の駆動力が素晴らしく、繊細さも併せ持つハイワアンプ

Signature Power AmpはA/B級動作方式のステレオパワーアンプ。出力素子は、モトローラ特注30A大容量の、近頃では珍しいCANタイプのバイポーラ型。構成は3パラレルプッシュプル(片ch)で、前述したアルミ合金ブロックから削り出しの上層ブロックに素子を直接固定。当然、発熱は下部ブロックにも伝わり、放熱と振動抑制効果が同時に確保される。出力は200W/ch(8Ω)、400W/ch(4Ω)で理論値通りの出力直線性。さらにブリッジ接続で600W(8Ω)出力のモノブロック化が可能。この駆動力を支える電源部はトータル1000VAのUIコア型でツイン電源トランス(500VA×2)と4700μF×4(片ch)のブロックコンデンサの構成。パネル中央のメーターは左右chの合成値を表示。入力はステレオ用にRCA、XLR。ブリッジ接続専用XLR×1がある。なお、入力はやむを得ない場合以外はRCAのアンバランス入

力が絶対にお薦めだ。スピーカー出力はバイワイヤリングにも対応。聴こえは低域の伸張と低重心が素晴らしく、中域から高域方向の自然さと繊細さがスムーズに繋がる。大出力型だが荒っぽさはまったくない。

誰もが納得する高い品位と音の自然な佇まい

Signatureシリーズの音の本質を聴くには、Signature Pre Amp + Signature Power Ampのコンビが理想だ。たっぷり2時間以上のエイジングの後にこのコンビの試聴をスタートした。高SN比だから微小レベルの再現性とダイナミックレンジに優れ、空間再現性も自然。広帯域にわたってスムーズかつダイナミックな駆動能力を発揮し文句なしのクオリティ。

私は、音の評価語をクドクド並べたてるのを好まないが、とにかく、ハツタリめいた音がこの帯域にもない自然な佇まいの音がSignatureシリーズの魅力である。高価だが使って後悔することはないと思う。読者には、機会があればぜひともどこかで試聴して欲しい。各自、好みの違いは当然あるだろうが、音の品位には誰もが納得するはずだ。

高いS/N、力強い駆動力、そして美しい音楽的なバランスに魅せられる

Signatureシリーズ日本上陸までの経緯



YBA製品の中でSignatureシリーズに関しては以前まで定番輸入されてこなかったが、2013年の独ミュンヘンHighEndにて最新のSignatureシリーズを聴いた筏氏が、その音に感銘を受け、純氏と協議、同年よりSignatureシリーズの日本総販売元となった経緯がある。Signatureシリーズを「男性的な力溢れるパワーと女性的な繊細さを併せ持った音」と評し、アンドレ氏から「Mr. YBA」と呼ばれるほど信頼を寄せられている筏氏は、取材当日、アンプの筐体を華麗に解体し、内部を解説してくれた。

右：YBA Signatureシリーズ日本総販売元 オーディオスペースコア 筏 隆市氏、中央：筆者、左：YBA日本総輸入元(有)アポロンインターナショナル 続 清志氏

壮観! 整然とした精細な内部

「Signature Pre AmpとSignature Power Ampの内部を見よう」ということになった。普通のプリアンプやパワーアンプだったら、ボンネットを外せば内部の様子は見えてくる。しかし、Signatureシリーズは超重量ボディの採用と多数のネジで上下を合体させる構造だから作業は簡単ではなかった。

まず、Signature Pre Ampの内部だが、下層部の底部にはDAC部とフォノEQ部がレイアウト。直近に電源部があるが削り出しで構成された万全のシールドが施されている。UIコア型ツイン電源トランスと全回路用に採用されたトータル24個(4,700μF×24=112,800μF)のブロックコンデンサの構成はプリアンプとして壮観でダントツ。YBAの「直流純化思想」の凄まじさを感じられる。

Signature Power Ampは、ボディの上層部にUIコア型ツイン電源トランスと左右ch独立4,700μF×4のブロックコンデンサによる電源部。さらに3パラレルプッシュプル(片ch)、モトローラ特注30A大容量のCANタイプ出力素子が左右対称で整然とマウントされている。プリント基板にはオリジナルの精密抵抗器などがゆとりを持って実装されている。また、微振動に特別に敏感な部品には薄い「木片」をあてがっているが、これは「制振と整振」に関するYBAの繊細なこだわりだと理解する。その上でSignature Pre Ampも同様だが、内部配線材がほとんどないことも進化の象徴と理解されたい。(藤岡 誠)



Signature Pre Amp背面



Signature Power Amp背面



Signature Pre Amp内部。音質に関係ある箇所はコネクターを使用せず全てカスタムハンダにて接続されている



Signature Power Amp内部。シャーシはもちろん、抵抗やコンデンサの脚、ターミナル、ビスまでも非磁性体を採用し磁気歪みを追放している